Japan Educational Mutual Aid Association of Welfare Foundation
MIYAGI
きょうこう通信
vol.43
2025年 冬発行

「第54回(2025年度)教育実践研究論文」各賞が決定いたしました！

応募締め切り８月20日までに、今年度も多くの論文をお寄せいただきました。大変ありがとうございました。数次にわたる選考の結果、各賞が決定いたしました。

2025年度　教育実践研究論文助成金　贈呈者

[学校部門]	最優秀賞１校	優秀賞１校	優良賞３校	入選31校
[個人部門]	最優秀賞１名	優秀賞10名	優良賞13名	入選114名

●最優秀賞［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
1	校長　佐藤　好彦	宮城県石巻商業高等学校	「地域に必要とされる学校づくり」に向けた商業高校の挑戦

●最優秀賞［個人部門］

No	氏名	学校名	研究題目
2	教諭　成澤　夏子	石巻市立河北中学校	指導と評価の一体化を目指した一試み

（「優秀賞」「優良賞」「学校賞」及び「講評」は２～６頁をご覧ください。）

受賞者よろこびの声

学校部門　最優秀賞

宮城県石巻商業高等学校
校長　佐藤　好彦 先生

このような栄誉ある賞をいただき、心より感激しております。これまで本校に携わっていただいた多くの方々の研鑽と協力の上に成り立っているものと受け止めています。また、本研究の主題は、実践にあたり昨年度の生徒会長の言葉が大きく我々教員の心を動かしたところから始まっており、生徒たちの「やってみたい」という志を表現するために「挑戦」としました。

これからも、生徒の主体性を生かしつつ、地域や学校の置かれている状況を鑑みながら、ますます商業高校としての学びを生かし、「地域に必要とされる学校づくり」に努めていきたいと思います。

個人部門　最優秀賞

石巻市立河北中学校
教諭　成澤　夏子 先生

栄誉ある賞をいただきましたことに心から感謝申し上げます。個人部門での受賞ではありますが、これもひとえに日頃より御指導を賜っております先輩方、切磋琢磨し合える同僚の皆さまの存在があってこそです。今回、執筆に臨んだ背景には、５年間向き合ってきた「単元評価」の成果と課題を記録として残し、今後の足掛かりにしていければという思いがありました。ただ、「単元評価」は期末考査の在り方を否定するものではないことをここに申し添えさせていただきます。目の前にいる生徒のために、今ある環境を生かして、今後も力を尽くしていきたいと思います。

優良賞以上の論文は、宮城支部Webサイトに掲載しております。

公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部
Webサイト　日教弘　宮城支部　検索　https://nikkyoko-miyagishibu.jp/

選考を終えて

選考委員　渡邊　幸雄　　齋藤　俊子
川村　英一　　杉　　肇子
佐々木克敬

「第54回（2025年度）教育実践研究論文の募集」に対し、学校部門36点、個人部門138点の応募があったことに心から感謝申し上げます。学校部門では、学校全体で課題に取り組んだ質の高い実践の論文も寄せられていますが、応募数が少なくなったのは残念です。個人部門は多岐にわたる分野からの応募があり、特に特別支援の分野からの応募が増えています。

１　審査概要

研究主題からは、各教科や領域のみならず、不登校対策や学力向上、ＩＣＴの活用、校内研究の在り方、校務のＤＸ化、働き方改革など、各校種、各職種において様々な取り組みが行われていることが分かります。応募いただいた論文は、それぞれの地域や学校の課題を捉え、児童生徒の成長を願う指導者の熱い思いが伝わってくるものばかりでした。審査の過程では、自校の現状分析等を踏まえ明確な課題分析になっているか、実践に独自性や創意工夫が見られるか、教職員及び児童生徒の変容を適切に捉え評価・分析がされているかなどを考慮して選考しました。

慎重な審査の結果、最優秀賞学校部門・個人部門で各１点、優秀賞学校部門１点、個人部門10点、優良賞学校部門３点、個人部門13点、さらに学校賞３校を選出しました。

２　選考委員会において

２ヶ月にわたる選考委員会で話題になったことを記します。今後の研究を進めるうえで参考になれば幸いです。

（１）主題について

学校部門では、県の課題を踏まえた論文が多く寄せられました。学校の実態に合わせ工夫している様子は見られますが、研究の切り口や実践方法等が似通っているという印象を受けました。先行研究を超える論文が生まれるためにも、新たな視点、創造的な着想、着実な実践の積み重ねなどを大事にしながら取り組みを続けてほしいと思います。

（２）成果・課題の分析について

教員や児童生徒のアンケート結果、取り組みの様子などから「できた」「分かった」「学びが深まった」等、指導者の主観に基づいて結論づけている論文も散見されました。指導者の主観に加え、実践の成果を裏付ける客観的な資料の組み合わせがあれば、より信頼性が高まるものと思われます。特に、小規模校や学級単位の実践では、量的データの数が限られるため、質的データ（発言記録や作品分析など）を充実させたり、複数の資料を組み合わせたりすることで多角的に検証することができます。

（３）論文の構成について

研究論文は、限られた文字数（8256字）の中に必要な内容をバランスよくまとめ、読み手に伝えることが求められます。前段で、一般論や文献・学習指導要領の解説に多くの文字数を用い、肝心の実践内容を記述しきれていない論文が散見されました。また、実践したことが、主題や副題に沿った内容になっていないものやまとめ等が主題に結び付いていないものも見受けられました。限られた文字数の中で、バランスを考えながら的確に論述することが望まれます。

（４）図表・写真等の扱いについて

実践内容が適切に読み手に伝わるよう、図表や写真を有効に活用する例が年々増加しています。しかし、今年も文字や数字が小さすぎて読みにくい図表や記述内容と写真の整合性がとれていないものも見受けられました。図表・写真の内容や挿入箇所が適切であるかなども吟味してほしいと思います。

３　最優秀賞論文について

学校部門は、宮城県石巻商業高等学校の「『地域に必要とされる学校づくり』に向けた商業高校の挑戦」です。石商マーケット、ＮＰＯや自治体等との連携、中学校での出前授業など、石巻地区の特色を活かした地域との連携について、丁寧に記述されています。商業高校としての特性を生かしながら、地域課題を捉え、地域に必要とされる学校づくりに取り組んでいることが分かります。

個人部門は、石巻市立河北中学校　成澤夏子教諭の「指導と評価の一体化を目指した一試み」です。５年間にわたる「単元評価」を生かした授業づくりの実践がまとめられており、指導と評価の一体化について、真摯に取り組んだ成果も丁寧に記述されています。また、評価規準が明確であり、評価方法も生徒の実態に応じながら工夫を重ねるなど、確実な実践の積み重ねがあります。学習評価を可視化した「単元成績表」の活用や評価課題に条件付け等を行う取り組みは、他の参考になるものです。

４　結びに

日々の教育実践は、言葉を使って記録し、まとめていかなければ失われてしまいます。教育論文は、書き手である先生方自身を鍛えるとともに児童生徒の学びや成長にも結びつきます。来年度も多くの先生方が挑戦した教育論文に出会えることを期待しています。

（文責　選考委員　齋藤俊子）

2025年度 教育実践研究論文受賞者の皆さま

優秀賞［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
3	校長 和泉 千佳子	石巻市立桃生中学校	誰もが行きたくなる魅力ある桃生中学校を目指して

優秀賞［個人部門］

No	氏名	学校名	研究題目
4	教諭 山田 和佳	仙台市立片平丁小学校	特別支援学級における主体的に学びを進める児童の育成を目指した一試み
5	教諭 鈴木 大地	仙台市立八幡小学校	こどもが伸びる学年経営の追究
6	教頭 鈴木 雅之	大河原町立大河原中学校	対話と広がりを重視した美術教育の実践
7	主幹教諭 北澤 直樹	岩沼市立岩沼小学校	校務DXの本質に迫る働き方改革の実証
8	主幹教諭 渡部 智喜	岩沼市立岩沼南小学校	問題解決の力× DXが支える「あの子」の理科の学び
9	教諭 橋本 奎	山元町立坂元小学校	協働の喜びを実感し、学級への所属感を高める学級活動
10	教頭 堀之内 和佳子	大崎市立古川第四小学校	子供にとっても教員にとっても安心できる学校を目指して
11	教諭 佐藤 仁紀	石巻市立蛇田小学校	「からだ」に意識を向けて表現する小学校表現運動の教材開発
12	教諭 制野 寛	東松島市立赤井小学校	主体的に考え、友達と学び高め合う喜びが得られる学習の一試み
13	教諭 津守 大智	宮城県多賀城高等学校	PPDACサイクルを軸としたデータサイエンスにおける探究的な授業実践

優良賞［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
14	校長 三浦 秀之	塩竈市立第一小学校	共に学び合い、考えを深める児童の育成
15	校長 山口 哲哉	利府町立青山小学校	自ら考え判断し、表現できる児童の育成
16	校長 齋藤 卓也	大崎市立古川第一小学校	主体的に学びに向かう児童の育成

優良賞［個人部門］

No	氏名	学校名	研究題目
17	教諭 小野 耕一	仙台市立愛宕中学校	『代入操作課題× ICT』で思考力を育む天体授業の実践
18	教諭 安藤 裕子	柴田町立船岡小学校	算数科における主体的に学びに向かう児童の育成を目指した一試み
19	教諭 吉田 恵佑	村田町立村田小学校	汎用クラウドツールや生成AIを活用した校務の徹底的な効率化を図るための一取組
20	教諭 太田 侑吾	白石市立白石中学校	中学校社会科における個別最適な学びの実現に向けた授業設計
21	教諭 石垣 佐季	塩竈市立玉川小学校	児童が「自分事」として探究し続ける総合的な学習の時間を目指して
22	教諭 尾身 夏輝	多賀城市立多賀城東小学校	学び合う職場を目指して
23	教諭 森元 智博	名取市立増田小学校	情報を適切に調べまとめる技能の育成を目指した小学校6学年社会科の指導法の工夫
24	教諭 佐藤 麻衣	大和町立小野小学校	「本が好き！」「読書が好き！」な児童の育成
25	養護教諭 本郷 伸枝	加美町立東小野田小学校	主体的･対話的で深い学びの実現を目指した「がん教育」（涌谷町立涌谷中学校での取組）
26	教諭 本多 礼諭	東松島市立矢本東小学校	「誰一人、取り残さない」授業の創造と実際
27	教諭 初澤 晋	宮城県石巻高等学校	英語教育における小中高連携
28	主幹教諭 三井 雅視	宮城教育大学附属小学校	数量の関係を表す式の理解を促すための学習指導の一試み
29	教諭 安倍 彰人	宮城教育大学附属小学校	子供の主体性を引き出し、探究的な学びを実現するための総合的な学習の時間の在り方

※「No」は通し番号であり、各賞の中の優劣を示すものではありません。

2025年度 教育実践研究論文受賞者の皆さま

入選［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
30	園長 大沼 博	石巻市立河北幼稚園	一人一人のよさを生かし合いながら協同して遊ぶ幼児の育成
31	校長 麻生 信行	仙台市立黒松小学校	校舎建て替えに伴う運動機会減少への挑戦
32	校長 成田 智哉	大河原町立大河原南小学校	確かな学力を育てるための国語科指導の在り方
33	校長 半澤 圭	大河原町立金ケ瀬小学校	「分かった」「できた」ことに喜びを感じ、主体的に挑戦する児童の育成
34	校長 佐々木 美奈子	塩竈市立第二小学校	自分の学びを分かりやすく表現できる児童の育成
35	校長 谷内 幸絵	塩竈市立第三小学校	主体的に表現する児童の育成
36	校長 松浦 晃弘	塩竈市立杉の入小学校	粘り強く解決し、共に学びを深める児童の育成
37	校長 信太 昭伸	利府町立菅谷台小学校	伝え合う力を高め、協働的な学びへと向かう児童の育成
38	校長 朝日田 顕志	多賀城市立多賀城小学校	「分かる喜び」「できる楽しさ」を感じ、自ら考える児童の育成
39	校長 鎌田 光伸	多賀城市立多賀城八幡小学校	主体的に学び合う児童の育成
40	校長 小澤 晃	名取市立増田小学校	主体的に考える児童の育成
41	校長 林 宏也	大和町立小野小学校	主体的に問題を解決できる児童の育成
42	校長 滝野澤 清史	大崎市立古川第三小学校	主体的に考え、「わかった　できた」を実感できる児童の育成
43	校長 熊谷 泰成	美里町立中埣小学校	主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成
44	校長 相澤 武弘	大崎市立鹿島台小学校	分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成（２／３年次）
45	校長 髙橋 和宏	栗原市立築館小学校	親和的な学級を目指して
46	校長 門脇 伸	栗原市立高清水小学校	主体的に考え、確かな学力を身に付ける児童の育成
47	校長 黒澤 かな子	栗原市立栗駒小学校	学ぶ楽しさを味わう児童の育成
48	校長 菅原 啓士	栗原市立栗駒南小学校	確かな学力を身に付けさせる指導の工夫
49	校長 菅原 研	栗原市立一迫小学校	思考を深め、自己解決に向かう児童の育成
50	校長 田中 政弘	石巻市立石巻小学校	楽しみ、挑み、かかわりながら、進んで運動をする児童の育成
51	校長 星 一義	石巻市立山下小学校	学びを自己調整し、自分を高めようとする児童の育成
52	校長 西村 武志	石巻市立開北小学校	親子で学ぶ防災教育の一試み
53	校長 高橋 匠	石巻市立北上小学校	確かな学力を身に付け、進んで学びに向かう児童の育成
54	校長 西牧 尚志	東松島市立大塩小学校	主体的に学び合い、確かな学力を身に付ける児童の育成
55	校長 成瀬 陽子	登米市立佐沼小学校	「チーム算数」を軸とした全職員で取り組む校内研究を目指して
56	校長 高橋 朋美	登米市立石森小学校	主体的に考え、学びを深める児童の育成
57	校長 白石 達哉	登米市立米岡小学校	学ぶ楽しさを味わい、互いに認め合う児童の育成
58	校長 佐藤 康	登米市立西郷小学校	深い学びを実現する算数科授業
59	校長 島貫 達也	気仙沼市立月立小学校	地域とともに育つ学校図書館の再構築と総合的な価値の探究
60	校長 田中 晃	宮城県立利府支援学校　塩釜校	児童の実態に応じた資質・能力の育成を目指した指導の在り方を探る

入選［個人部門］

※研究グループ含む

No	氏名	学校名	研究題目
61	教諭 髙橋 美紀	仙台市立荒町小学校	多様性を認め、安心できる居場所づくりに向けた実践
62	栄養教諭 千葉 慎太郎	仙台市立高砂小学校	『学校』・『家庭』・『地域』との連携した食育の推進に向けて（2）
63	教頭 石井 恵子	仙台市立国見小学校	生成 AI を活用した校務処理の効率化と今後の可能性
64	教諭 安彦 俊宏	仙台市立国見小学校	教員それぞれの力量形成に向けた研修の一試み
65	教頭 丹野 憲	仙台市立中野栄小学校	教職員の笑顔で拓くウェルビーイングな学校づくり
66	教諭 末永 有哉	仙台市立中野栄小学校	自己実現の方法について発展的に考えを深める児童を育成する自分づくり教育の一試み
67	教諭 関谷 優衣	仙台市立黒松小学校	GIGA スクール環境下における自己調整学習の初期指導の在り方に関する考察
68	校長 熊谷 敬子	仙台市立虹の丘小学校	道徳教育重点目標「感謝」を要としたグランドデザインの実践
69	教諭 鈴木 整次	仙台市立虹の丘小学校	傘を閉じる行為から見る非認知能力の育ちと生活習慣の関連性
70	教諭 村田 くるみ	仙台市立虹の丘小学校	感謝の気持ちを持ち、相手に伝えようとする児童の育成
71	主事 伊藤 秀	仙台市立富沢中学校	保護者の経済的負担を軽減する　学校納付金減額への挑戦
72	教諭 鈴木 康紀	仙台市立南中山中学校	授業における「振り返り」の可能性の検討
73	教諭 末谷 卓士	仙台市立鶴谷特別支援学校	「やりたくない」から「もっとやりたい」へ－主体的な学びを目指した実践
74	教頭 齋藤 和広	大河原町立大河原南小学校	ICT 活用で変わる学びと学校
75	教諭 渋谷 海	大河原町立金ケ瀬小学校	児童の問いから物語の読みを深める国語科授業に関する一実践
76	養護教諭 千葉 花枝	大河原町立金ケ瀬小学校	健康の大切さに気付き自らウェルビーイング向上を目指す児童の育成
77	教諭 田島 晃輝	村田町立村田第二小学校	演じて実践する『君たちはどう生きるか』

No	氏　名	学　校　名	研　究　題　目
78	教諭　和田　惇平	川崎町立富岡小学校	主体的に運動を楽しむ児童の育成
79	教頭　針生　武宏	角田市立横倉小学校	創意工夫を生かした学校の組織運営の推進
80	教諭　藤谷　祐輔	丸森町立舘矢間小学校	教室への入室に課題のある小５児童へのチーム学校としての支援の一試み
81	教諭　髙橋　錬	白石市立白石中学校	小中接続をふまえた英語指導の在り方に関する実践研究
82	主幹教諭　浅野　勝治	柴田町立船岡中学校	教師のコミュニケーションについての一考察
83	教諭　菊地　裕之	柴田町立船岡中学校	効果的なグループワークと ICT の活用について
84	教諭　阿部　和子	柴田町立船岡中学校	天災・人災等の防災教育（命の学習）を３年間の学びを通した家庭科からの発信
85	教諭　髙橋　美也子	塩竈市立玉川小学校	「ヒロシマのうた」を読む
86	講師　千葉　和俊	利府町立利府小学校	理科の成績アップを目指した保護者との連携
87	教諭　大宮司　淳	利府町立利府第三小学校	児童の実態から考える授業づくり
88	教諭　及川　麻帆	利府町立しらかし台小学校	「豆太」を案じる「じさま」の想い
89	教諭　村上　綾花	利府町立しらかし台小学校	太一は、なぜクエを討たなかったのか
90	講師　角田　研	利府町立しらかし台小学校	笑顔の力「自分も周りも幸せに」
91	教諭　渡辺　倫子	利府町立青山小学校	「表現したい」という思いを伸ばす外国語の授業実践研究
92	教諭　林　美和	利府町立青山小学校	児童の主体性を育む算数科授業を目指して
93	教諭　本郷　真哉	利府町立青山小学校	学びのスタイルを子ども自身がデザインする
94	教諭　渡辺　壮太	利府町立青山小学校	児童の「自ら学ぶ力」を育む方法選択型学習のデザイン
95	主幹教諭　鎌田　美沙絵	松島町立松島第一小学校	「教員が全員参加で授業改善を図る校内研究」を目指した研究主任としての取り組み
96	主幹教諭　髙橋　裕子	多賀城市立多賀城小学校	自立した学習者の育成
97	講師　早坂　雪男	多賀城市立多賀城東小学校	特別支援学級の集団活動に柔軟に対応できる教育課程の工夫
98	教諭　佐々木　美咲	多賀城市立山王小学校	“できた！”が明日を変える、児童と共に歩んだ生活単元学習の一年
99	教諭　大槻　征玄	多賀城市立城南小学校	教室復帰困難児童への心理的安全性を基盤とした支援実践
100	教諭　尾崎　颯音	多賀城市立城南小学校	主体的に考え、全員が「分かる」「できる」ための算数科の指導
101	教諭　末永　萌香	七ヶ浜町立松ケ浜小学校	特別支援学級における道徳科授業の在り方
102	教諭　渡邉　剛志	名取市立増田小学校	自律して学ぶ児童の育成を目指した小学校社会科の実践
103	常勤講師　田原　進	名取市立那智が丘小学校	季節の飾りを作ろう「仙台七夕」
104	教諭　八巻　大樹	岩沼市立岩沼小学校	物語文を読むことが楽しいと思わせる児童の育成
105	教諭　丹野　浩基	岩沼市立岩沼南小学校	失敗を成長につなげることができる子供の育成を目指して
106	教諭　村形　舞香	岩沼市立岩沼南小学校	個別の教育支援計画（つながるｉシート）を活用した授業作り
107	教諭　佐藤　優輝	亘理町立高屋小学校	小学校理科の主体的に問題解決する児童の育成
108	教諭　丸山内　大翼	山元町立坂元小学校	小学校における、災害時の判断力と危険回避行動を育てる教材開発の実践
109	教諭　山田　実咲	山元町立坂元小学校	配慮の必要な児童が支援を通して輝くとき
110	教諭　佐藤　奈々	山元町立坂元小学校 不登校支援チーム	別室登校児童の心の居場所づくり
111	教諭　川股　剛	大和町立吉岡小学校	５年生社会科から見る世の中
112	教諭　猪股　純子	大和町立小野小学校	教務主任の視点から進める持続可能な働き方改革
113	教諭　青砥　知恵子	大和町立小野小学校	児童の主体的な読みを起点とした読解の深化を目指す物語文指導
114	教諭　池山　潤子	大和町立小野小学校	３年生の音楽「曲に合った歌い方」の指導の工夫
115	教諭　鈴木　みゆき	大和町立小野小学校	主体性をもち、進んで学ぶ児童の育成
116	教諭　西條　雅俊	大和町立小野小学校	ICT を活用した学習指導の充実
117	教諭　齊藤　伸子	大和町立小野小学校	「難聴学級における言語理解力と表現力を高める指導」
118	教諭　高田　瑶香	大和町立小野小学校	児童が自ら感じ、考え合うことができる道徳科の授業づくり
119	教諭　二階　美貴	大和町立小野小学校	特別支援コーディネーターとして、保護者との連携の在り方
120	教諭　鈴木　和彦	大和町立小野小学校	確かな学力向上を目指して
121	教諭　佐藤　秀一	大和町立鶴巣小学校	異学年児童が共に生き生きする学級づくりの一試み
122	教諭　大瀧　優	大和町立鶴巣小学校	小規模校におけるモジュールタイム活用と教務の工夫による働き方改革の実践
123	教諭　末永　賢行	大郷町立大郷小学校	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る一試み
124	教諭　津島　弘子	大衡村立大衡小学校	「ことばの教室」における啓発活動の一試み
125	教諭　天野　美恵子	名取市立増田中学校	Self-Learning　Bloom　in　Masu-chu
126	教諭　高橋　純子	富谷市立日吉台中学校	発生実験においてウニ・ヒトデよりもすぐれた実験動物の探索
127	教諭　蛯沢　佳菜恵	大崎市立古川第二小学校	自己肯定感を高め、役に立つ喜びを感じ、主体的に生きようとする児童の育成を目指して
128	講師　早坂　和枝	大崎市立古川第五小学校	正しく発音できる喜びを実感し、日常生活の中で活用していこうとする意欲を育てることばの教室
129	教諭　馬場　貴崇	涌谷町立涌谷第一小学校	令和型の学級経営
130	教諭　髙橋　陸	栗原市立築館小学校	学びの主語が変わるとき

2025年度 教育実践研究論文受賞者の皆さま

No	氏　名	学　校　名	研　究　題　目
131	校長　白　鳥　　武	栗原市立志波姫小学校	できる喜びを自信につなげる算数科の個別検定の一実践
132	教諭　及　川　瑞　希	栗原市立志波姫小学校	国語科における児童にとって安心・安全な協働的な学び
133	教諭　山　内　孝　一	栗原市立志波姫小学校	学校組織力向上を重点課題とした校内研究の推進
134	教諭　佐々木　　巧	栗原市立志波姫小学校	生涯スポーツの基礎づくりを目指した指導法の研究
135	講師　及　川　由美子	栗原市立志波姫小学校	魅力ある・行きたくなる学校
136	教諭　佐　藤　誠　之	栗原市立瀬峰小学校	自立活動における身体の移動能力の向上
137	教諭　小　池　明　美	栗原市立若柳小学校	よりよい言語環境を目指して
138	教諭　庄　子　　勲	加美町立中新田中学校	中学校社会科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための課題解決学習の一試み
139	教諭　酒　井　充　英	色麻町立色麻学園	通常の学級に在籍する特別の支援を要する児童への早期アセスメントの重要性
140	教諭　藤　坂　雄　一	石巻市立大谷地小学校	異学年交流による集団形成の成熟に関する一考察
141	教諭　荒　谷　拓　実	石巻市立須江小学校	ICT を活用した日常的な振り返り活動の工夫
142	教諭　木　村　　剛	石巻市立鹿又小学校	個の可能性を拓くインクルーシブ教育
143	校長　片　岡　明　恵	東松島市立赤井小学校	子供のたくましく生き抜く力を高めるための土台作りの一試み
144	主幹教諭　加　藤　一　郎	東松島市立赤井小学校	「自分の命は自分で守る」力を身に付ける防災教育
145	教諭　早　坂　稚　子	東松島市立赤井小学校	“わかる・できる・つながる”を支える特別支援学級の学級経営
146	教諭　小　林　里　紗	東松島市立矢本第二中学校	中学校保健体育科カリキュラムにおけるゲストティーチャー活用事例
147	校長　宍　戸　雅　治	東松島市立鳴瀬未来中学校	生徒の夢を応援する魅力ある未来中づくり
148	教諭　狩　野　　航	東松島市立鳴瀬未来中学校	生徒と地元企業の想いを形にする教育活動の実践
149	主幹教諭　松　浦　英　樹	石巻市立牡鹿中学校	「からだと心」の統合を目指す保健体育の授業実践
150	教頭　安　岡　　忍	登米市立新田中学校	カリキュラム・マネジメントによる学校課題の構造的解決
151	教諭　青　沼　　慧	登米市立新田中学校	特別支援学級における教育課程の柔軟な編成と見直しに関する一考察
152	教諭　千　葉　博　幸	宮城県宮城第一高等学校	「“国際”日本史探究」の実践と「海外研修旅行」への架橋
153	主任主査（学校司書）　齊　藤　麻里江	宮城県工業高等学校	情報センターとしての学校図書館活用
154	教諭　勝　亦　浩　之	宮城県泉館山高等学校　企画情報部	探究活動を通しての『館高力』育成の実践
155	非常勤講師　畑　中　鞠　子	宮城県松島高等学校	生徒が実技課題に主体的に取り組むための指導の試み
156	教諭　中　村　　亮	宮城県利府高等学校	地域資源を活用した生徒の学術探究の発信と実学教育との融合
157	教諭　佐　藤　隆　行	宮城県柴田高等学校	学校、家庭、福祉の連携と生徒の主体性を伸長する自己肯定感との関連
158	教諭　品　川　　諒	宮城県石巻商業高等学校	地域資源を生かした授業づくりによる自己効力感の醸成
159	教諭　中　川　寿　之	宮城県立利府支援学校　塩釜校	Y男の発達段階を高めるための指導の一試み
160	教諭　八　嶋　貴　彦	宮城県立船岡支援学校	特別支援教育の専門性をどう学び、どう伝えていくか
161	講師　川　村　龍　子	宮城県立山元支援学校	重い障害のある肢体不自由児・者の主体的な楽器演奏の取り組み
162	教諭　遠　藤　美　幸	宮城県立金成支援学校	知的障がい特別支援学校における教育 DX を目指した取組
163	教諭　熊　谷　寛　登	宮城県立小松島支援学校	知的障害と肢体不自由のある重複障害児が主体的に取り組む自立活動づくり
164	教諭　猪　又　綾　音	宮城県立松陵支援学校	知的特別支援学級における道徳授業の実践
165	講師　太　田　正　吾	聖ウルスラ学院英智小・中学校	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した社会科教育の実践
166	教諭　須　藤　由　子	東北生活文化大学高等学校	中学校社会科　地理的分野における課題解決型授業の工夫
167	教諭　鹿　内　隆　世	宮城教育大学附属小学校	資料で遊びながら学ぶ社会科授業
168	教諭　佐　藤　友　宙	宮城教育大学附属特別支援学校	「能力」はどこにあるのか
169	元園長　橋　本　惠　司	石巻市立稲井幼稚園　退職	「子どもたちの感性を豊かにする」
170	大　友　いほ子	公立小学校　退職	気負わずにできる書写の授業を目指して
171	大　森　光　洋	公立小学校　退職	よりよい初任者研修を目指して
172	矢　部　英　寿	宮城バレーボールプロジェクト	小学校低学年からのネット型教材の開発と実践づくり
173	星　　純　一	宮城県仙台南高等学校　退職	桃山美術
174	教育指導員　坂　本　忠　厚	女川町教育委員会	新聞を通した「社会とつながる体験」の一考察

学　校　賞

利府町立青山小学校	大和町立小野小学校	栗原市立志波姫小学校

2026年度も教育実践研究論文のご応募をお待ちしております。

(公財)日本教育公務員弘済会　教育研究助成事業

2026年度宮城支部教育研究大会助成・2026年度宮城支部教育団体研究助成　募集

申請期間　2025年10月１日(水)～12月５日(金)

[教育研究大会助成事業]

教育の振興に寄与すると認められる教育研究大会に対し助成を行う事業。ただし、宮城県内を会場とし県内の教育団体が主催または主管する大会を対象とします（退職者で構成される団体が主催の大会、大学・短期大学が主催・主管する大会、学会、研究会等は対象外です）。

●全国規模の大会　**20万円以内**　　●東北地区大会　**10万円以内**

↑
募集要項はこちらから

[教育団体研究助成事業]

教育の振興に寄与すると認められる団体の特に有益な研究活動に対し助成を行う事業。

❶全県及び全仙台市の教職員を対象とした団体　**20万円以内**
❷特定分野の研究活動等を行っている教科研究会等　**15万円以内**
❸特定地区の教職員を対象とした団体、退職者で構成される団体、「❶」「❷」で助成する団体の構成員の一部によって組織された団体　**10万円以内**
❹本事業の助成要件を満たしていると当支部が認めたその他の団体　**10万円以内**

↑
応募フォームはこちらから

詳細はWebサイトでご確認ください。

(公財)日本教育公務員弘済会宮城支部 福祉事業生活応援企画

合計300名様 選べるプレゼントキャンペーン

スターバックスカード・図書カード・ホテルメトロポリタン仙台レストラン利用券から１つをプレゼント！

教弘保険にご加入いただいている会員の皆さまに、日ごろの感謝を込めて３種類のプレゼントをご用意いたしました。応募された方の中から抽選で、合計300名の皆さまにご希望の賞品（各5,000円相当）をプレゼントいたします。

希望される方は、弘済会宮城支部のWebサイトから詳細をご確認のうえ、ご応募ください。

記

[応 募 資 格]　教弘保険（A型、B型、K型、S型、ユース、１種、４種、新４種、新教弘）加入者。
※応募期間中に契約が確認できる方が対象となります。

[応 募 期 間]　**2025年９月16日(火)～2025年12月15日(月) 17：00まで**

[応 募 方 法]　弘済会宮城支部のWebサイトから申込。QRコードをご利用ください。

[抽 選 結 果]　賞品の郵送をもって発表とかえさせていただきます。

「クイズに挑戦して図書カードを手に入れよう」にご応募いただきありがとうございました

「きょうこう通信Vol.42」のクイズの正解は、

1：チューリップ(ウッコンコウ)　2：ヒヤシンス(フウシンシ)　3：ホウレンソウ　4：ナズナ　5：トマト(バンカ)

でした。正解者の中から抽選で50名様に図書カード3,000円分を贈呈いたしました。当選者の方には、応募時にご指定いただいた宛先に送付いたしましたので、どうぞ読書をお楽しみください。

お詫び　記念品（モバイルバッテリー）の不具合について

6月中旬、教弘保険新規加入及びA・B型10年継続記念品としてお届けしたモバイルバッテリーの一部に本体の膨張が確認されたことから、弘済会として事故防止に万全を期すため、お届けした皆さまに直ちに使用停止のお願いをいたしました。

メーカーに不具合の原因について問い合わせをし、報告を受けた後に対応する予定でおりましたが、発生から2か月が経過したこともあり、独自に回収・処分することとし、８月下旬に該当の皆さまへお知らせいたしました。また、併せて新たな記念品（今治タオルセット）も送付させていただきました。

お届けした皆さまに多大なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げますとともに、回収・処分に際しご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

2026年度 貸与奨学生募集

無利息　上限100万円　全額一括交付

2025年度は43名に総額3,825万円を貸与。教弘保険未加入者も対象。

募集期間
- ■ 第Ⅰ期　2026年２月２日(月)～３月27日(金)必着
- ■ 第Ⅱ期　2026年４月１日(水)～５月22日(金)必着

貸与金額
修業期間１年につき25万円（正規の最短修業期間）。最高100万円。

資格
- 文部科学省の所管に属する国公私立の大学院・大学・短期大学・高等専門学校（第４学年以上）、専修学校専門課程に在学または入学が決定していて、学資金の支払が困難と認められる方。（海外の大学等は対象となりません。）
- 2026年４月１日時点で30歳未満であることとします。
- 連帯保証人（保護者等）は、奨学生本人と連帯して返還の責任を負える原則４親等以内の親族等であり成年者に限ります。なお、県内居住は問いませんが、県外居住者の場合、勤務地が県内であることとします。
- 現在貸与を受けている方（返還途中を含む）の兄弟姉妹にも貸与可です。
- 他団体等の奨学金との併用も可です。
- 宮城支部「教育振興事業選考委員会」にて選考します。

返還方法
10年以内（但し、奨学金額100万円借用者に限定し、それ以外は８年以内）に、**年賦で口座振替により返還**をしていただきます。
無利息ですが、返還を滞納した場合は延滞金をお支払いいただきます。

お申込方法
当支部または教弘担当者にお申し出ください。申請書類をお送りいたします。

申請の流れ

●申請（上記募集期間）：以下の書類をご提出ください。
①奨学生申請書　②付属調査票
③在学証明書（入学前の場合は、入学手続きが完了したことを証明する書類）
④連帯保証人の市町村発行の所得証明書（直近のもの）※源泉徴収票は不可

※奨学金は奨学生名義の口座に送金します。
口座がない場合は、新しく口座の開設をお願いいたします。

※申請書類の受理後、当支部から奨学生に意思確認の電話をします。確認が取れない場合は選考対象となりませんのでご注意ください。

●選考（Ⅰ期：４月中旬予定　Ⅱ期：６月上旬予定）
選考後、貸与の採否通知を当支部から連帯保証人（保護者等）宛に郵送いたします。
貸与決定の方には以下の書類を提出していただきます。
①借用証書
②連帯保証人の印鑑登録証明書（市区町村発行のもので、発行から３ケ月以内の原本）

●送金（Ⅰ期：５月下旬から順次　Ⅱ期：７月下旬から順次）
奨学生名義の口座に、全額一括交付いたします。

送付先
〒980-0013　仙台市青葉区花京院１-１-５　オークツリー花京院３階
公益財団法人　日本教育公務員弘済会宮城支部　奨学生担当　宛
電話番号　022－346－1525

その他
※大学等の卒業の年に、卒業論文・研究の概要、または学習成果についての報告（400文字程度）及び奨学金の主な使途を提出していただきます。
※提出書類に不備があった場合、選考対象となりませんので、ご注意ください。

＊詳細は当支部Webサイト（https://nikkyoko-miyagishibu.jp/）をご覧ください。

公益財団法人　日本教育公務員弘済会[略称(公財)日教弘]の教育振興事業（奨学事業、教育研究助成事業、教育文化事業）及び福祉事業は、教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本の教育界に貢献しています。

宮城支部の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)については、当支部Webサイト(https://nikkyoko-miyagishibu.jp/)をご覧ください。

編集・発行
公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部
株式会社 宮城教弘
〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5　オークツリー花京院 3階　TEL(022)346-1525　FAX(022)346-1528
■印刷：株式会社 東北プリント

UD FONT